



歯科衛生士・コーチ
石田恵子氏
Ishida, Keiko

日本歯科漂白研究会主催セミナー(2004年7月4日、5月6日・東京)から

審美歯科時代のコミュニケーション

「わかり合える」「前に進める」コーチング

病気を治すためだけの歯科医療から、より美しさと健康の獲得をサポートする歯科医療へ。すでに広く普及しているホワイトニング、さらに進んで、今秋日本でも発売されるティースマニキュアなど、「より上を目指す」歯科医療には、これまでとはひと味違うコミュニケーション技法が求められます。そのひとつが、相手の能力を自発的に最大限まで引き出すよう手助けをする「コーチング」。スタッフ教育の方法としては、すでに歯科医院でも採用されている例がありますが、デンタルスタッフから来院者へ向けたコミュニケーション技法として、今後、さらに可能性が広がっています。

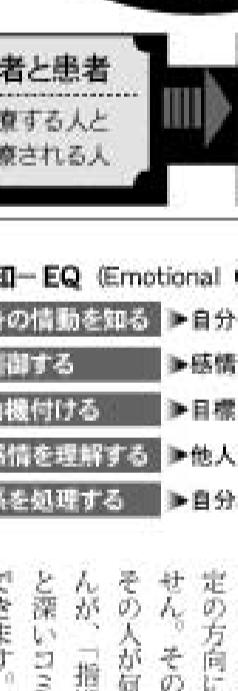
私は、歯科衛生士としての経験を生かし、歯科医療の現場にコーチングを普及させていきたいと思っています。

株式会社シンergyコンサルティング コーチング企画部 TEL 03-5491-5399 http://www.synergy-c.co.jp/coach_keiko

56

審美歯科時代のコミュニケーション

WIN&WINの法則



私は、これまでに8つの歯科医院で勤務し、また経営者サイドに立った経験もあります。デンタルスタッフとして働く以上、治療、周辺サービス含め、その歯科医院の一員として患者さんの満足を満たし、患者さんが満足感を得るといふことで、自分も仕事を充実感を得ることができます。されば、自分も仕事を充実感を得ることができると期待し、日々の仕事をしてきました。このように、患者さんにとっても医療者にとっても望ましい「WIN & WIN」の関係を作りたいというのは、多くの歯科医療人は共通の願いではないでしょうか。

歯科医療の新たな「かたち」 健康を獲得する場所になってきた

健康を獲得する場所に

なってきた

● 伸の場所

● 痛い場所

● オ金のかかる場所

● 面倒くさい場所

● あつたとされています。今でも、この

● やうな感覚を人々から持たれている歯科

● 医院があるかもしれません。時代は確

● 実に動いています。これから歯科医院

● は、自分の立場を全く受け入れれる

● 余地がない場面での「きく」です。聞く

● ような感覚を人々から持たれている歯科

● 医院があるかもしれません。時代は確

● 実に動いています。これから歯科医院

● は、自分の立場を全く受け入れれる

● 余地がない場面での「きく」です。聞く

● あなたはどう思

● いました。それを聞いてあなたはどう思

● いますか? と、オフポートに因りますに

● 自分を出しながら、最後に「どう思つ?」

● 「どうなりたい?」という問い合わせをす

● ますか? と、オフポートに因りますに

● 「どうなりたい?」という問い合わせをす

● ますか? と、オフポートに因りますに